

解析学 II 解答例

2018.05.21

■ 漸化式

$$a_1 = p, \quad a_2 = q, \quad a_{n+2} = 2a_{n+1} - a_n \quad (n \in \mathbb{N})$$

により定められる数列 $\{a_n\}$ の一般項を求めるために,

$$A = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -1 & 2 \end{pmatrix}; \quad b_n = a_{n+1}, \quad \mathbf{x}_n = \begin{pmatrix} a_n \\ b_n \end{pmatrix}, \quad n \in \mathbb{N}$$

とおくと, 上記の漸化式は $\mathbf{x}_{n+1} = A\mathbf{x}_n$ と表せ, $\mathbf{x}_n = A^{n-1}\mathbf{x}_0$ により一般項 a_n が求まる. このとき, 一般項 a_n を実際に求めよ.

(解) 方程式 $\det(A - \lambda E) = (\lambda - 1)^2 = 0$ の解が固有値であるから, A の固有値は $\lambda = 1$ である. $A - 1 \cdot E \neq O$ であるから, $\dim \text{Ker}(A - E) = 1$ である. 連立方程式 $(A - E)\mathbf{x} = \mathbf{0}$ の非自明な解として $\mathbf{v}_1 = (1, 1)^T$ があり, 連立方程式 $(A - E)\mathbf{x} = \mathbf{v}_1$ の解として $\mathbf{v}_2 = (1, 2)^T$ がある. ここで, $P = (\mathbf{v}_1, \mathbf{v}_2)$ とおくと,

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$$

であるから,

$$A^n = P \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}^n P^{-1} = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 1 & 2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & n \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 2 & -1 \\ -1 & 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1-n & n \\ -n & n+1 \end{pmatrix}$$

となる. したがって, 一般項 a_n は $A^{n-1}\mathbf{x}_1$ の第 1 要素であるから,

$$a_n = (2 - n)p + (n - 1)q$$

となる. ■